伊曽島小だより

NO. 7

よく学び　よく遊び　心豊かでたくましく生きる　伊曽島っ子の育成　２０２５．６．１４

けテぶれ

自分で計画して、自分でテストの結果を受け入れて、自分で分析して、自分で学習するのが“けテぶれ”です。だから、計画した内容やテストの結果に先生や親が口出ししてはいけません。（アドバイスはしますが）今後、宿題を先生から出されなくても自分で学習に取り組めるようにするのが目的です。

今年度から取り組み始めたことなので、具体的にどう行うか、試行錯誤しているところです。疑問に感じることや、改めてほしいことがありましたら、ぜひ教えてください。

学校の様子

４年　パッカー車見学

６年　税の教室

認知症を知る授業

６／２　プール掃除

フレッシュシャワー

６／５　プールびらき！

単位の話　１センチメートルは１０ミリメートル

　小学校の授業でいろいろな単位を学習します。いろいろな単位が出てくると何が何だか分からなくなってしまうということがあるかも知れません。しかし、単位はとても重要ですし、分かってしまえばまったく難しい物ではありません。

　１センチメートルは１ｃｍと書き、１ミリメートルは１ｍｍと書きます。ｃｍはｃ（センチ）とｍ（メートル）に分けられます。ｍｍは最初のｍ（ミリ）と後のｍ（メートル）に分けられます。そして１ｍ（メートル）というもとになる長さの単位があります。

　つまりｍ（メートル）という長さを表す単位とｃ（センチ）やｍ（ミリ）という大きさを表す単位が合わさっているということです。Ｃ（センチ）をつけるともとの大きさの１／１００を表し、ｍ（ミリ）をつけるともとの大きさの１／１０００を表します。だから、１００ｃｍが１ｍであり、１０００ｍｍが１ｍになります。

　同じように牛乳１パックは１ℓ（リットル）ですが、１ｍℓ（ミリリットル）は１ℓの１／１０００で涙のひとしずく、ぐらいの量になります。他にもケータイの容量にテラとかギガという単位がありますが、これも大きさを表す単位で、正しくはＴＢ（テラバイト）やＧＢ（ギガバイト）という単位でありＢ（ﾊﾞｲﾄ）が容量を意味しているので、ＴやＧは大きさを表す単位で容量という意味はありません。

　ちなみに１０００の位ごとに大きさを表す単位があるので紹介します。

もとの大きさの千倍→ｋ（キロ）の千倍→　Ｍ（メガ）の千倍→Ｇ（ギガ）の千倍→Ｔ（テラ）
もとの大きさの１/1000→ｍ（ミリ）の１/1000→μ（マイクロ）の１/1000→ｎ（ナノ）

　これらの単位を長さや重さを表す単位と組み合わせて使うのです。

　また、これよりもっと大きい単位も、小さい単位もあります。またｃｃ（シーシー）などのように水のような物にしか使われない単位もあります。さらに国によっても同じ大きさを表す単位を使うとはかぎりません。しかし世界の標準的な単位は学校で習っていることなので、それさえ理解しておけば大丈夫です。

　【メートル原器】１７９５年　フランス

　世界中の１ｍの基になる基準の長さを表す物として、地球の赤道から北極までの長さの１千万分の１を１ｍとしてつくられた。

　（今は別の方法で測っています）